

平成 28 年 1 月 26 日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成 27 年 11 月 2 日付け厚生労働省発生食 1102 第 2 号をもって諮問された、食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 11 条第 1 項の規定に基づくエトフェンプロックスに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

エトフェンプロックス

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

(1) 品目名：エトフェンプロックス [Etofenprox (ISO)]

(2) 用途：殺虫剤

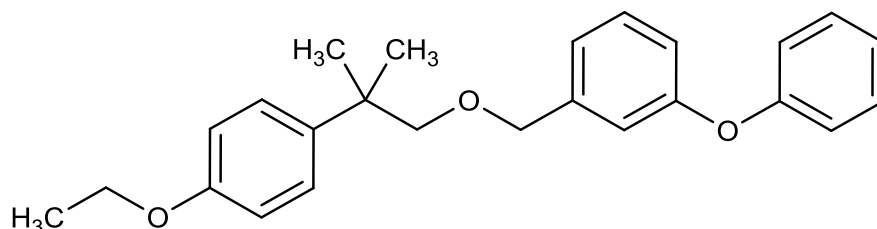
ピレスロイド様の活性を示す殺虫剤である。神経軸索におけるナトリウムチャンネルの働きを阻害することにより、殺虫活性を示すと考えられている。

(3) 化学名

2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropyl 3-phenoxybenzyl ether (IUPAC)

1-[[2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropoxy]methyl]-3-phenoxybenzene (CAS)

(4) 構造式及び物性



分子式	C ₂₅ H ₂₈ O ₃
分子量	376.49
水溶解度	22.5 µg/L (20°C)
分配係数	log ₁₀ Pow = 6.9 (20°C)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

【作物名】となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 国内での使用方法

① 0.50%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	
稲	イネトムシ	4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	
	カメムシ類 イネミスゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウカ類 コブノメカガ アザミウマ類 イコ類 イネトオイムシ ニカメテユウ	3~4 kg/10 a					
	イネヒメモグリハエ フタホヒコガ	3 kg/10 a					
小麦	ヒメトビウカ アブラムシ類	4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	2 回以内			2 回以内
すいか	ハスモンヨトウ	4 kg/10 a	収穫 3 日まで	3 回以内			3 回以内
きゅうり	ウリムシ	3~4 kg/10 a	収穫前日まで				
はくさい	アムシ		収穫 7 日前まで				
だいこん			収穫 21 日前まで				
豆類 (種実)	ハスモンヨトウ マメシクカガ シロイモジマダラメカガ カメムシ類 フタスジヒメムシ ダイスサヤマバエ アブラムシ類 アズキノメカガ	4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	2 回以内	2 回以内		
えだまめ	ハスモンヨトウ	3~4 kg/10 a					
		マメシクカガ シロイモジマダラメカガ カメムシ類 フタスジヒメムシ ダイスサヤマバエ	4 kg/10 a				

① 0.50%エトフェンプロックス粉剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
やまのいも	シイモジヨトウ	4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも	ハスモンヨトウ		収穫 7 日前まで			
かんしょ	ハスモンヨトウ ナガジロシタバ					
とうもろこし	アヲメカガ	4 回以内	3 回以内	4 回以内		
キャベツ	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3~4 kg/10 a		収穫 3 日前まで		3 回以内
れんこん	マメカガネ	4 kg/10 a	収穫 14 日前まで			3 回以内

② 0.40%エトフェンプロックス粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	3 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

③ 1.5%エトフェンプロックス粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミスヅウムシ イネトノロイムシ イネゾウムシ イネヒメハメグリハエ イナコ類 ウカ類 ツマグゴヨコバイ	2~3 kg/10 a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ニカメイトウ (第一世代)	3 kg/10 a				
さとうきび	ハリガネムシ類	9 kg/10 a	植付時	1 回	植溝土壌混和	1 回
れんこん	イネネハムシ	3 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	2 回以内 (植付時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 1 回以内)
畑わさび	ナトビハムシ		植付時	1 回	植溝土壌混和	
			収穫 14 日前まで		散布	
わさび			畑育苗期 ただし、 植付時	植溝土壌混和		
		畑育苗期	散布			

④ 20.0%エトフェンプロックス水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	2000倍	60～150 L/10 a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ	チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ		1000～ 2000倍	200～700 L/10 a			
りんご	モモシクイガ キンモンホガ	2000倍					
	ハマキムシ類	2000倍					
なし	シクイムシ類 ナシヒガ アブラムシ類	1000～ 2000倍					
	ハマキムシ類	2000倍					
もも	モモホクダリガ	1000倍					
	シクイムシ類	2000倍					
くり	クリシキゾウムシ						
かき	カキノハタムシガ チャミノガ	1000～ 2000倍	収穫30日 前まで				
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000倍					

⑤ 10.0%エトフェンプロックス・10.0%イミベンコナゾールフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
だいち	紫斑病 アブラムシ類 カメムシ類 マメシクイガ	1000倍	150～300 L/10 a	収穫30日 前まで	2回以内	散布	2回以内
		8倍	800 mL/10 a			無人ヘリコプターによる散布	

⑥ 10.0%エトフェンプロックス・20.0%フサライドフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ヒメトビウンカ カメムシ類	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
		300倍	25 L/10 a				
		8倍	0.8 L/10 a			無人ヘリコプターによる散布	

⑦ 6.2%エトフェンプロックス・8.0%トリシクラゾールフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類	120～180倍	25 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
		650倍	100～150 L/10 a				
	ツマグロヨコバイ カメシ類	20倍	3 L/10 a			空中散布	
		5倍	800 mL/10 a				
	いもち類 ウカ類 カメシ類	原液	150 mL/10 a			無人ヘリコプターによる散布	
		5倍	800 mL/10 a				

⑧ 5.0%エトフェンプロックス・20.0%チオフアネートメチルフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 墨黒穂病 カメシ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ	500倍	60～200 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	いもち病 紋枯病 カメシ類	4倍	0.8 L/10 a			空中散布	

⑨ 0.020%エトフェンプロックス・0.040%DBEDC水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 アブラムシ類 コジラミ類	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 コジラミ類			2回以内		2回以内

⑩ 20.0%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	—	コブノメイガ	1000倍	60～150 L/10 a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネトヨイムシ イナゴ類	1000～2000倍					
		カメムシ類 イネミスズウムシ	2000倍					
		ウンカ類	300～ 600倍	25 L/10 a				
		ツマグロヨコバイ イネミスズウムシ イネトヨイムシ	300倍					
		カメムシ類	600倍					
キャベツ	—	アオムシ コガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～ 300 L/10 a	収穫3日前まで	2回以内	2回以内	
はくさい					収穫7日前まで			
だいこん					収穫21日前まで			
ブロッコリー					アオムシ			収穫前日まで
ねぎ	シロイモジヨトウ	1000倍	100～ 300 L/10 a	収穫21日前まで	2回以内	2回以内		
レタス	アブラムシ類			収穫14日前まで	3回以内	3回以内		
すいか	アブラムシ類 コジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ			収穫3日前まで				
	メロン			アブラムシ類 コジラミ類			4回以内	4回以内
かぼちゃ	コジラミ類			1000～2000倍	1000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内
なす	アブラムシ類							
ピーマン	アブラムシ類 カメムシ類							
オクラ	コジラミ類 アブラムシ類							
きゅうり	アブラムシ類 ウリノメイガ カメムシ類 コジラミ類 ヨトウムシ類							

⑩ 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
トマト	—	コジラミ類	1000倍	100～300 L/10 a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
さやえんどう 実えんどう		シロイモジヨトウ ヨウムシ ウラナミジミ			収穫開始 7日前まで			
さやいんげん		ワタアブラムシ ウラナミジミ マメノメイガ			収穫14日 前まで			
えだまめ		マメシクイガ シロイモジマダ ラメイガ ダイズサヤタマ ハエ カメシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ			1000～ 2000倍			
未成熟ささげ		アブラムシ類	1000倍	収穫前日まで	1回			
うど				根株養成期 ただし、 収穫45日 前まで				
モロヘイヤ				アザミウマ類	収穫14日 前まで			
かんきつ		コアオナムケリ ケシキスイ類	1000～ 2000倍	200～700 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内		
		ミカンハモグリ ガ						
小麦		チャノキイロアザ ミウマ	2000倍	60～150 L/10 a	2回以内	2回以内		
とうもろこし		アヲノメイガ アヲヨトウ	1000倍	100～300 L/10 a	収穫7日 前まで	4回以内		
きび		アカシノカスシカメ			収穫14日 前まで	3回以内		
ほうきぎ		ホウキギツツミ ガ			収穫30日 前まで	2回以内		
ばれいしょ		アブラムシ類			3回以内	3回以内		
かんしょ	ナジロシタハ アブラムシ類 ハスモンヨトウ			収穫7日 前まで	3回以内	3回以内		

⑩ 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数			
やまのいも やまのいも (むかご)	—	アブラムシ類 ヤマトコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内			
さといも		ハスモンヨトウ			収穫 7 日 前まで						
さといも (葉柄)											
豆類 (種実、 ただし、 だいず、 あずきを 除く)		マメシクイガ アブラムシ類 シロイモジマダ ラメイガ ダイズサヤタ バエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ アズキノメイガ									
だいず		マメシクイガ アブラムシ類 シロイモジマダ ラメイガ ダイズサヤタ バエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ						収穫 14 日 前まで	2 回以内		2 回以内
あずき		マメシクイガ アブラムシ類 シロイモジマダ ラメイガ ダイズサヤタ バエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミジミ ノメイガ類									
しょうが		ハスモンヨトウ			収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内			
葉しょうが					収穫 14 日 前まで						

⑩ 20.0%エトフェンプロックス乳剤 (つづき)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
ふき	—	コジラミ類 フキメイト ヨウムシ	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
せり (水耕栽培)	ガラス室 等の施設	アブラムシ類		100～150 L/10 a	収穫 30 日 前まで	2 回以内		2 回以内
せり みずいも	水田	キノコイコトモトキ	2000 倍	100～300 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
あしたば	—	アブラムシ類						2 回以内
みつば	—	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 21 日 前まで ただし、伏 せ込み栽培 は伏せ込み 前まで	2 回以内		2 回以内
てんさい	—	ヨウムシ	1000～ 2000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
茶	—	チャノボカ チャノミドリヒメコ バイ チャノキイロアザミマ	2000 倍	200～400 L/10 a	摘採 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内
マンゴー	—	チャノキイロアザミ マ	1000 倍	200～700 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内

⑪ 10.0%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イコト類 イネトオイムシ カメムシ類 イネミスズウムシ コブノメイト	1000 倍	60～150 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	300 倍	25 L/10 a		2 回以内		
小麦	アブラムシ類	1000 倍	60～150 L/10 a		2 回以内		2 回以内

⑪ 10.0%エトフェンプロックス乳剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数		
やまのいも	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
ばれいしょ				収穫 7 日前まで					
だいず	マシクイガ ハモンヨウ カメシ類			収穫 14 日前まで	2回以内		2回以内		
えだまめ									
さやえんどう	ウナミジミ シイモジヨウ			1000 倍	100～300 L/10 a		収穫前日まで	3 回以内	3 回以内
実えんどう									
きゅうり	コジラミ類 アブラムシ類			アブラムシ類	収穫 3 日前まで		4 回以内	4 回以内	
すいか	アブラムシ類				2 回以内		2 回以内		
メロン	コジラミ類			コジラミ類 アブラムシ類	収穫前日まで		3 回以内	3 回以内	
トマト	アブラムシ類								
なす	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
キャベツ	アブラムシ類 ヨウムシ アオムシ			収穫 7 日前まで					
はくさい	シイモジヨウ			収穫 21 日前まで	2 回以内		2 回以内		
だいこん	アブラムシ類			収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内		
ねぎ	アブラムシ類								
レタス	ヨウムシ			根株養成期 ただし、収穫 45 日前まで	2 回以内		2 回以内		
てんさい	アオムシ								
エンサイ	イモガ								
うど	アブラムシ類								

⑫ 10.0%エトフェンプロックス乳剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	コバノメガ イコガ類 ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ	30 倍	3 L/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	空中散布	3 回以内
	イコガ類 ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ	8 倍	0.8 L/10 a				

⑫ 10.0%エトフェンプロックス乳剤（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェン [®] ロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	ウンカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ コブノメガ イコ [®] 類	8 倍	0.8 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	無人ヘリコプター による散布	3 回以内
小麦	ヒメビ [®] ウンカ			2 回以内	収穫 14 日 前まで		
だいず	ハモンヨウ カメシ類		1.6 L/10 a		収穫 7 日 前まで		3 回以内
あずき	フキメガ [®]			3.2 L/10 a	収穫 14 日 前まで		
しょうが	アヲメガ [®]		3.2 L/10 a		収穫 14 日 前まで		3 回以内
やまのいも	ヤマノイモガ [®] アブラムシ類	3.2 L/10 a		収穫 14 日 前まで	3 回以内	3 回以内	

⑬ 4.0%エトフェンプロックス油剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェン [®] ロックスを 含む農薬の 総使用回数
稲	イネスズウムシ イネト [®] ロイムシ	200~300 mL/10 a	移植後 20 日以降 (ただし 5 葉期 以後)収穫 21 日 前まで	3 回以内	原液を田面水 に滴下又は 入水時水口に 滴下	3 回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイト [®] 第 1 世代	500 mL/10 a				
	イコ [®] 類	300~500 mL/10 a				

⑭ 4.0%エトフェンプロックス油剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェン [®] ロックス を含む農薬の 総使用回数
稲	イネスズウムシ イネト [®] ロイムシ	水溶性容器 4~6 個 (200~300 mL)/10 a	5 葉期以降 収穫 21 日 前まで	3 回以内	本田に 水溶性容器 のまま 投げ入れる	3 回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイト [®] 第 1 世代	水溶性容器 10 個 (500 mL)/10 a				
	イコ [®] 類	水溶性容器 6~10 個 (300~500 mL)/10 a				

⑮ 20.0%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数		
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ	1000～ 2000 倍	60～150 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
	カメシ類 イネトオムシ	2000 倍							
	イコ類 コブノメカ	1000 倍							
	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	600 倍	25 L/10 a						
ばれいしょ	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	2 回以内		3 回以内		
だいず えだまめ	カメシ類 ハスモンヨトウ マメシクサ			収穫 14 日 前まで					
きゅうり	アブラムシ類 ウリノメカ			収穫 前日まで	3 回以内				
なす	アブラムシ類			収穫 3 日 前まで					
キャベツ	ハマダラカ アオムシ ヨウムシ			収穫 7 日 前まで					
はくさい	アブラムシ類 ヨウムシ			1000 倍	100～300 L/10 a	収穫 21 日 前まで		3 回以内	3 回以内
だいこん	アブラムシ類 ヨウムシ					収穫 14 日 前まで			
てんさい	ヨウムシ								

⑯ 20.0%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ	60 倍	3 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	空中散布	3 回以内
	カメシ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ イコ類	16 倍	0.8 L/10 a				

⑩ 20.0%エトフェンプロックスマイクロカプセル剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類 ヒメトビウカ	16倍	0.8 L/10 a	収穫14日 前まで	3回以内	無人ヘリコプター による散布	3回以内
小麦	アブラムシ類	8~16倍			2回以内		2回以内
だいた	ハスモンヨトウ カメシ類	8倍	1.6 L/10 a				2回以内
	マメシクイガ	16倍					
てんさい	ヨトウガ				3回以内		3回以内

⑪ 10%エトフェンプロックス・20%フサライドフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウカ類	原液	100 mL /10a	収穫14日 前まで	3回以内	空中散布	3回以内
	ツマグロヨコバイ ウカ類 カメシ類 イコガ類	30倍	3 L/10a				

(2) 海外での使用方法

① 8%エトフェンプロックス・7%ジフルベンズロン水和剤 (韓国)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
とうがらし	タバコガ	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布

② 10%エトフェンプロックス・1.5%インドキサカルブ水和剤 (韓国)

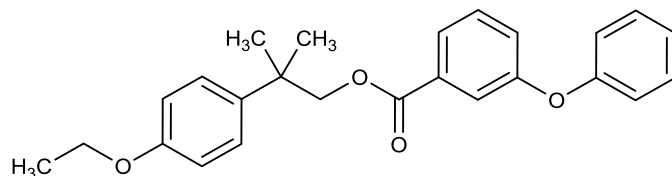
作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法
とうがらし	タバコガ	2000倍	収穫5日前まで	3回以内	散布

3. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・エトフェンプロックス
- ・2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンゾエート
(以下、代謝物IVという。)



代謝物IV

② 分析法の概要

i) エトフェンプロックス

試料からアセトンで抽出し、ヘキサンに転溶した後、フロリジルカラムで精製する。トリメチルシリルヨードと反応させて、3-フェノキシベンジルヨードに変換した後、ヘキサンに転溶し、フロリジルカラムで精製後、ガスクロマトグラフ (ECD) 又は高速液体クロマトグラフ (UV) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、ヘキサン等に転溶後、必要に応じてヘキサン/アセトニトリル分配を行う。フロリジルカラム、エチレンジアミン-*N*-プロピルシリル化シリカゲル (PSA)・中性アルミナ連結カラム又はゲル浸透クロマトグラフ (GPC) 及びフロリジルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV)、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) 又はガスクロマトグラフ・質量分析計 (GC-MS) で定量する。

あるいは、試料からアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム又は多孔性ケイソウ土カラム及びフロリジルカラムで精製した後、GC-MS、高速液体クロマトグラフ (UV)、LC-MS、液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) で定量する。

定量限界 : 0.004~0.2 ppm

ii) 代謝物IV

試料からアセトンで抽出し、ヘキサンに転溶した後、シリカゲルカラムで精製する。2 mol/L水酸化カリウム溶液とイソプロパノール中で加熱還流して加水分解し、3-フェノキシ安息香酸に変換する。更に2, 2, 2-トリクロロエタノールと無水トリフルオロ酢酸中で加熱して2, 2, 2-トリクロロエチル *m*-フェノキシベンゾエートに変換し、ヘキサンに転溶後、ガスクロマトグラフ (ECD) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出し、ヘキサン等に転溶した後、必要に応じてヘ

キサン/アセトニトリル分配を行う。フロリジルカラムで精製し、高速液体クロマトグラフ (UV)、LC-MS 又は GC-MS で定量する。

あるいは、試料からアセトン抽出後、多孔性ケイソウ土カラムで精製し、LC-MS 又は LC-MS/MS で定量する。

代謝物IVについては、換算係数 0.964 を用いてエトフェンプロックスに換算した値を示す。

定量限界 : 0.01 ppm

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験結果の概要については別紙 1-2 を参照。

4. 魚介類への推定残留量

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度^{注1)} 及び生物濃縮係数 (BCF : Bioconcentration Factor) から、以下のとおり魚介類中の推定残留量を算出した。

なお、生物濃縮試験 (ブルーギルにおける流水式試験) において、魚抽出物 (可食部、非可食部) からは親化合物が確認されている。

(1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田 PECtier2^{注2)} 及び非水田 PECtier1^{注3)} を算出したところ、水田 PECtier2は0.0058 ppb、非水田 PECtier1は0.036 ppbとなったことから、非水田 PECtier1の0.036 ppbを採用した。

(2) 生物濃縮係数

エトフェンプロックス (高濃度区 : 0.001 mg/L、低濃度区 : 0.0002 mg/L) を用いた60日間の取込期間及び62日間の排泄期間を設定したブルーギルの魚類濃縮性試験が実施された。エトフェンプロックスの分析の結果から、BCF_{ss}^{注4)} は4260 (高濃度区)、3956 (低濃度区) と算出された。

(3) 推定残留量

(1) 及び (2) の結果から、エトフェンプロックスの水産動植物被害予測濃度 : 0.036 ppb、BCF : 4260とし、下記のとおり推定残留量が算出された。

$$\text{推定残留量} = 0.036 \text{ ppb} \times (4260 \times 5) = 766.8 \text{ ppb} \div 0.77 \text{ ppm}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定におけ

る規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

注4) BCF_{ss}: 定常状態における被験物質の魚体中濃度と水中濃度の比で求められたBCF。

(参考): 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

5. 畜産物への推定残留量

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、農林水産省から畜産物に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留量を算出した。

(1) 飼料中の残留農薬濃度

飼料及び飼料添加物の成分規格等に関する省令（昭和 51 年農林省令第 35 号）に定める飼料一般の成分規格等と飼料の最大給与割合等から、飼料の摂取によって家畜が暴露されうる飼料中の残留農薬濃度を算出した。

成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中にエトフェンプロックスが残留している場合を仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の最大理論的飼料由来負荷 (MTDB)^{注)} を算出したところ、肉牛において 7.3 mg/kg、乳牛において 14 mg/kg、採卵鶏において 0.30 mg/kg、肉用鶏において 0.15 mg/kg と推定された。

また、飼料作物における作物残留試験のデータから推定される量のエトフェンプロックスが残留していると仮定し、これに飼料の最大給与割合等を掛け合わせるにより飼料中の平均的な残留農薬濃度 (STMR dietary burden) を算出したところ、肉牛において 5.1 mg/kg、乳牛において 5.7 mg/kg、採卵鶏において 0.30 mg/kg、肉用鶏において 0.14 mg/kg と推定された。ただし、個別の作物残留試験結果が得られていない飼料作物については、MTDB と同様に、成分規格等で定められている基準値上限まで飼料中に農薬が残留している場合を仮定し、算出した。

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden :MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量のこと。飼料中残留濃度として表示される。

(参考 : Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

(2) 家畜残留試験（動物飼養試験）

今回、畜産物中の推定残留量を算出するにあたって、1993年にJMPRにおいて評価された際に用いられた乳牛の飼養試験の結果等を参照した。

① 乳牛における残留試験

乳牛（ホルスタイン種、3～5頭/群）に対して、エトフェンプロックスが0.5、1.5及び50 mg/kg含有する飼料を28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳に含まれるエトフェンプロックス濃度を測定した。結果については表1を参照。

表1. 乳牛の組織中の最大残留濃度（mg/kg）

組織	0.5 mg/kg 投与群	1.5 mg/kg 投与群	50 mg/kg 投与群
筋肉	<0.05（最大）	0.05（最大）	0.35（最大）
	<0.05（平均）	0.05（平均）	0.18（平均）
脂肪	0.54（最大）	1.89（最大）	14（最大）
	0.38（平均）	1.23（平均）	9.82（平均）
肝臓	<0.05（最大）	<0.05（最大）	0.63（最大）
	<0.05（平均）	<0.05（平均）	0.41（平均）
腎臓	<0.05（最大）	0.05（最大）	1.16（最大）
	<0.05（平均）	0.05（平均）	0.62（平均）
乳	<0.05（平均）	0.05（平均）	1.21（平均）

② 産卵鶏における残留試験

産卵鶏（白色レグホン種、211日齢）に対して、エトフェンプロックスが5、15及び50 mg/kg含有する飼料を28日間にわたり摂食させ、筋肉、脂肪、肝臓及び卵に含まれるエトフェンプロックス濃度を測定した。結果については表2を参照。

表2. 産卵鶏の組織中の最大残留濃度（mg/kg）

組織	5 mg/kg 投与群	15 mg/kg 投与群	50 mg/kg 投与群
筋肉	0.02（最大）	0.04（最大）	0.06（最大）
	0.02（平均）	0.03（平均）	0.05（平均）
脂肪	0.79（最大）	1.74（最大）	3.84（最大）
	0.69（平均）	1.65（平均）	3.46（平均）
肝臓	0.08（最大）	0.13（最大）	0.29（最大）
	0.07（平均）	0.10（平均）	0.16（平均）
卵	0.07（最大）	0.19（最大）	0.40（最大）
	0.05（平均）	0.12（平均）	0.25（平均）

(3) 推定残留量

乳牛及び産卵鶏について、MTDB と各試験における投与量から、畜産物中の推定残留濃度を算出した。結果については表 3-1 及び表 3-2 を参照。

表 3-1. 牛の組織中の推定残留濃度 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
乳牛	0.13 (0.061)	5.1 (2.0)	0.20 (0.081)	0.34 (0.10)	0.35 (0.15)
肉牛	0.09 (0.06)	3.4 (1.9)	0.12 (0.077)	0.18 (0.092)	
最大値	0.13 (0.061)	5.1 (2.0)	0.20 (0.081)	0.34 (0.10)	0.35 (0.15)

上段：最大残留濃度、下段：平均的な残留濃度

表 3-2. 鶏の組織中の推定残留濃度 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	卵
肉用鶏	0.001 (0.001)	0.023 (0.020)	0.002 (0.002)	
産卵鶏	0.001 (0.001)	0.048 (0.041)	0.005 (0.004)	0.004 (0.003)
最大値	0.001 (0.001)	0.048 (0.041)	0.005 (0.004)	0.004 (0.003)

上段：最大残留濃度、下段：平均的な残留濃度

6. ADI及びARfDの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたエトフェンプロックスに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

（1）ADI

無毒性量：3.1 mg/kg 体重/day
（動物種） マウス
（投与方法） 混餌
（試験の種類） 発がん性試験
（期間） 2年間
安全係数：100
ADI：0.031 mg/kg 体重/day

発がん性試験において、ラットの雌で甲状腺ろ胞細胞腺腫が認められたが、遺伝毒性試験が全て陰性であったこと及びメカニズム試験の結果から、腫瘍の発生機序は遺伝毒性メカニズムとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

（2）ARfD

無毒性量：100 mg/kg 体重/day
（動物種） ウサギ
（投与方法） 強制経口
（試験の種類） 発生毒性試験
安全係数：100
ARfD：1 mg/kg 体重

7. 諸外国における状況

2011年にJMPRにおける毒性評価が行われ、ADI及びARfDが設定されている。国際基準はりんご、なし等に設定されている。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国において米、乳等に、EUにおいてりんご、ぶどう等に基準値が設定されている。

8. 基準値案

（1）残留の規制対象

エトフェンプロックスとする。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物、畜産物及び魚

介類中の暴露評価対象物質としてエトフェンプロックス（親化合物のみ）を設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

① 長期暴露評価

1日当たり摂取する農薬等の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	EDI/ADI (%) ^{注)}
一般 (1歳以上)	33.3
幼小児 (1~6歳)	68.8
妊婦	29.0
高齢者 (65歳以上)	39.0

注) 各食品の平均摂取量は、平成17~19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特集計業務報告書による。

TMDI 試算法：基準値案×各食品の平均摂取量

EDI 試算法：作物残留試験成績の平均値×各食品の平均摂取量

② 短期暴露評価

各食品の短期推定摂取量(ESTI)を推定したところ、一般(1歳以上)及び幼小児(1~6歳)のそれぞれにおける摂取量は急性参照用量(ARfD)を超えていない^{注)}。詳細な暴露評価は別紙4-1及び4-2参照。

注) 基準値案を用い、平成17~19年度の食品摂取頻度・摂取量調査及び平成22年度の厚生労働科学研究の結果に基づきESTIを推定した。

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】		
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
水稻 (玄米)	2	20%水和剤+ 1.5%粒剤+ 20%乳剤	150倍育苗箱散布0.5 L/箱 水面施用4 kg/10 a 1000倍散布200 L/10 a	3+1+1	7, 14, 21, 27	圃場A:*0.13/**0.01(*5回, 21日、**5回, 27日) (#) 注2)	
					7, 14, 21, 27	圃場B:*0.13/*<0.01(*5回, 21日) (#)	
	2	20%水和剤+ 1.5%粒剤	100倍育苗箱散布0.7 L/箱 散布6 kg/10 a	1+1	114	圃場A:<0.01/<0.01 (#)	
					98	圃場B:<0.01/<0.01 (#)	
	2	1.5%粒剤	散布4 kg/10 a	5	21	圃場A:0.01/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)	
	2	0.5%粉剤	散布4 kg/10 a	5	14, 21, 27	圃場A:*<0.01/*<0.01(*5回, 14日) (#)	
					14, 19, 26	圃場B:*0.01/*0.02(*5回, 14日) (#)	
	2	4.0%油剤	原液水面滴下0.5 L/10 a	3	43	圃場A:<0.01/-	
	2		原液水面滴下0.75 L/10 a		21	圃場A:<0.01/- (#) 圃場B:<0.01/- (#)	
	2	20%乳剤	2000倍散布 200 L/10 a	5	14, 21, 28	圃場A:0.30/<0.01 (#) 圃場B:0.02/<0.01 (#)	
	2		1000倍散布 200 L/10 a		14, 21, 28	圃場A:0.10/- (#) 圃場B:0.06/- (#)	
	2		1000倍散布 144, 142 L/10 a		7, 14, 21	圃場A:0.06/<0.01 圃場B:*0.14/<0.01(*3回, 21日)	
	2		200倍フームスプレー散布 25 L/10 a		3	21	圃場A:0.046/- (#) 圃場B:0.015/- (#)
	2		1000倍散布 125 L/10 a		3	21	圃場A:0.065/- 圃場B:0.022/-
	2		300倍フームスプレー散布 25 L/10 a		3	14, 21, 28	圃場A:0.05/- 圃場B:*0.12/-(*3回, 21日)
	2	10%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.106/0.01 (#) 圃場B:*0.064/*0.01(*3回, 21日) (#)	
			200倍フームスプレー散布 25 L/10 a		21	圃場A:0.022/- (#) 圃場B:0.020/- (#)	
			8倍無人ヘリ散布 8 L/h a		21	圃場A:0.010/- (#) 圃場B:0.015/- (#)	
			2		8倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a	14, 21, 28	圃場A:0.02/- 圃場B:*0.01/-(*3回, 21日)
	2	10%水和剤	原液空中散布0.1 L/10 a	1	37	圃場A:<0.01/- 圃場B:<0.01/-	
			1000倍散布 100 L/10 a		37	圃場A:<0.01/- (#) 圃場B:<0.01/- (#)	
			1000倍散布 150 L/10 a	4	21, 28	圃場A:0.070/- (4回, 21日) 圃場B:0.023/- (4回, 21日)	
			2	1000倍散布 150 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.023/- 圃場B:0.03/-
	2	6.2%水和剤	620倍散布 150, 146 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:*0.09/0.01(*3回, 21日) 圃場B:0.08/<0.01	
			120倍フームスプレー散布 25 L/10 a		3	21	圃場A:0.016/- 圃場B:0.009/-
			600倍散布 125 L/10 a		3	21	圃場A:0.011/- 圃場B:0.016/-
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a	1	14, 21, 28	圃場A:0.067/0.02 圃場B:0.06/0.02	
			16倍空中散布 0.78, 0.8 L/10 a		22	圃場A:<0.01/- (#)	
					27	圃場B:<0.01/- (#)	
			2		2000倍散布 100 L/10 a	22	圃場A:0.010/- (#)
27						圃場B:0.018/- (#)	
2			16倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		27	圃場A:<0.01/- (#)	
	28	圃場B:<0.01/- (#)					

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	2	20%マイクロカプセル剤	300倍フォームスプレー散布 25 L/10 a	3	21	圃場A:0.01/- (#) 圃場B:<0.01/- (#)
	2		1500倍散布 125 L/10 a		21	圃場A:0.02/- 圃場B:0.04/-
	2		16倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		14, 21	圃場A:0.02/- 圃場B:0.02/-
	2	6.2%水和剤+ 0.5%粉剤	620倍散布150 L/10 a 散布4 kg/10 a	2+1	7, 14, 21	圃場A:0.04/<0.01 圃場B:*0.02/<0.01(*3回, 21日)
	2	20%マイクロカプセル剤 +0.5%粉剤	1000倍散布150 L/10 a 散布4 kg/10 a			圃場A:0.04/<0.01 圃場B:0.04/<0.01
	2	20%乳剤+ 0.5%粉剤				圃場A:0.06/<0.01 圃場B:*0.04/*<0.01(*3回, 21日)
	2	10%乳剤+ 0.5%粉剤	8倍無人ヘリ散布0.8 L/10 a 散布4 kg/10 a			圃場A:0.01/<0.01 圃場B:0.01/<0.01
小麦 (玄麦)	2	20%乳剤	2000倍散布 200 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A:0.022/- (#) 圃場B:0.160/- (2回, 13日) (#)
	2		2000倍散布 100 L/10 a		7	圃場A:0.260/- (#) 圃場B:0.37/- (#)
	2		2000倍散布 150, 120 L/10 a		7, 14, 21	圃場A:0.14/0.01 圃場B:0.04/0.02
	2	10%乳剤	8倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		7	圃場A:0.086/- (#) 圃場B:0.101/- (#)
	2	20%マイクロカプセル剤	16倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		14, 21, 30	圃場A:0.03/-
	2				14, 21, 28	圃場B:*0.01/- (*2回, 21日) 圃場A:0.02/<0.01 圃場B:0.02/<0.01
とうもろこし (未成熟雌穂)	2	20%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	4	7, 14	圃場A:<0.01/<0.01 圃場B:0.06/<0.01
とうもろこし (乾燥種実)	2	20%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	4	7, 14	圃場A:*0.04/*0.04(*4回, 14日) 圃場B:<0.01/<0.01
きび (種子)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:1.38/- 圃場B:0.47/-
	2				14, 21, 28	圃場A:0.13/0.04 圃場B:0.23/0.02
だいず (乾燥子実)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	14	圃場A:0.01/<0.01 圃場B:<0.01/<0.01
	2	10%乳剤	4倍無人ヘリ散布 0.97~1.04, 0.82~0.83 L/10 a		14	圃場A:<0.01/- (#) 圃場B:0.034/- (#)
	2		8倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		14	圃場A:<0.004/<0.01 圃場B:<0.004/<0.01
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a		14	圃場A:0.006/<0.01 圃場B:0.060/0.01
	2				14	圃場A:0.014/- 圃場B:0.04/-
	2				7, 14, 21	圃場A:0.02/- 圃場B:<0.01/-
	1	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a		7, 14, 21	圃場A:0.012/-
	1		1000倍散布 150 L/10 a		7, 14, 21	圃場A:0.014/-
	2	20%マイクロカプセル剤	8倍無人ヘリ散布 0.8 L/10 a		7, 14, 21	圃場A:<0.02/- 圃場B:<0.02/-
	2	10%水和剤	1000倍散布 150, 200 L/10 a		13, 20, 27	圃場A:*<0.01/- (*2回, 27日) 圃場B:*<0.01/- (*2回, 28日)
	2				13, 20, 27	圃場A:*<0.01/- (*2回, 27日) 圃場B:*<0.01/- (*2回, 28日)
	2				14, 21, 28	圃場A:*<0.01/<0.01 (*2回, 28日) 圃場B:*<0.01/<0.01 (*2回, 28日)
	2				14, 21, 28	圃場A:*<0.01/<0.01 (*2回, 28日) 圃場B:*<0.01/<0.01 (*2回, 28日)

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (葉部)	1	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.54/0.14
	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a		15, 21, 30	圃場A:0.07/<0.01
	2				13, 23, 28	圃場B:*0.03/*<0.01(*3回, 23日)
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 176~180, 150 L/10 a		14, 21, 30	圃場A:0.042/- 圃場B:1.12/-
	2		1000倍散布 200, 167 L/10 a		7, 14, 21 7, 14, 20	圃場A:3.14/- 圃場B:0.84/-(3回, 20日)
はくさい (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 300~400 L/10 a	3	7, 14, 22 7, 14, 21	圃場A:0.12/<0.01 圃場B:0.18/0.01 (#)
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 300 L/10 a		3, 7, 14	圃場A:2.32/- 圃場B:2.02/-
	2		1000倍散布 250 L/10 a			圃場A:1.79/*0.16(*3回, 14日) 圃場B:*2.88/0.27(*3回, 14日)
ブロッコリー (花蕾)	2	20%乳剤	1000倍散布 299, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:1.16/*<0.04(*3回, 3日) 圃場B:*3.44/*0.07(*3回, 3日)
キャベツ (葉球)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 250 L/10 a	3	3, 7, 14	圃場A:0.31/<0.01 圃場B:0.20/<0.01
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場A:0.019/- 圃場B:0.394/-
	2	10%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a			圃場A:0.024/- 圃場B:0.192/-
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150~200, 208 L/10 a			圃場A:0.08/- 圃場B:0.26/-(3回, 7日)
	2		1000倍散布 300, 250 L/10 a			圃場A:0.34/0.02 圃場B:0.12/<0.01
畑わさび (根及び根茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:<0.2/- 圃場B:0.5/-
	2					圃場A:0.08/<0.01 圃場B:0.34/<0.01
レタス (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.75/- 圃場B:0.05/-
	2		1000倍散布 300, 222, 247, 185 L/10 a			圃場A:1.20/0.10 圃場B:0.50/0.03
レタス (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 293, 200, 300, 250 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.06/<0.01 圃場B:0.05/<0.01
ふき (茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14	圃場A:0.56/0.01 圃場B:0.51/0.01
葉ねぎ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.30/- 圃場B:1.00/-
	2					圃場A:0.062/0.02 圃場B:0.028/0.03
ねぎ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.437/- 圃場B:0.179/0.15
みつば (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 150 L/10 a	2	14, 21, 28, 35 20, 28, 35	圃場A:2.4/- 圃場B:*1.6/-(*2回, 20日)
	2		1000倍散布 100, 150 L/10 a		14, 21, 30	圃場A:1.27/0.020 圃場B:2.54/0.067
せり (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 150 L/10 a	2	14, 21, 28, 35 21, 28, 35	圃場A:*0.3/-(*2回, 28日) 圃場B:*0.7/-(*2回, 28日)
	2		1000倍散布 100, 100・150 L/10 a		14, 21, 28 21, 28, 35	圃場A:*0.02/*<0.01(*2回, 28日) 圃場B:*0.21/*<0.01(*2回, 28日)
あしたば (茎葉)	2	20%乳剤	2000倍散布 300 L/10 a	3	1, 3, 7, 14, 21	圃場A:<0.20/- 圃場B:<0.20/-
	2		2000倍散布 227, 222 L/10 a			圃場A:0.01/<0.01 圃場B:0.01/<0.01
トマト (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 300, 250 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:*0.609/*0.02(*2回, 3日) 圃場B:*0.264/0.01 (*2回, 3日)

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】		
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数	
ピーマン (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200, 300 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 1.71/-	
	2		1000倍散布 200, 250 L/10 a			圃場B: 2.66/-	
なす (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 0.64/<0.01	
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 183, 300 L/10 a			圃場B: 0.16/<0.01	
	2		1000倍散布 297, 292 L/10 a			圃場A: 0.258/-	
きゅうり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場B: 0.305/-	
	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 300, 220~252 L/10 a			圃場A: 0.32/<0.01	
	2		1000倍散布 200, 286 L/10 a			圃場B: *0.32/<0.01 (*3回, 3日)	
かぼちゃ (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: 0.13/0.02	
	2					1000倍散布 300, 220~252 L/10 a	圃場B: 0.18/<0.01
すいか (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 95~200, 200 L/10 a	3	3, 7	圃場A: 0.162/-	
	2		1000倍散布 204~280, 280 L/10 a			圃場B: 0.54/-	
メロン (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 400 L/10 a	4	3, 7	圃場A: 0.24/<0.01	
	2		1000倍散布 279, 283, 300 L/10 a			圃場B: 0.18/<0.01	
にがうり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 100~200, 202 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A: 0.49/<0.01	
	2		1000倍散布 228, 256 L/10 a			圃場B: 0.126/<0.01	
オクラ (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A: <0.01/-	
	2		1000倍散布 204~280, 280 L/10 a			圃場B: <0.01/-	
しょうが (根茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	3	7, 14	圃場A: <0.01/<0.01	
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場B: 0.054/0.01	
	2	10%乳剤	8倍無人へり散布 1.6 L/10 a			圃場A: 0.007/<0.01 (#)	
葉しょうが (塊茎及び茎)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場B: 0.007/<0.01 (#)	
	2		1000倍散布 187, 180 L/10 a			圃場A: <0.005/<0.01 (#)	
さやえんどう (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	1, 7, 14, 21	圃場B: <0.005/<0.01 (#)	
	2		1000倍散布 150 L/10 a			圃場A: 0.12/-	
さやえんどう (さや)	3	20%乳剤	1000倍散布 190, 200, 189 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場B: 0.13/-	
	2		1000倍散布 150 L/10 a			圃場A: 0.74/0.06	
さやいんげん (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場B: 0.14/0.04	
	2		1000倍散布 150 L/10 a			圃場A: 0.40/<0.01	
えだまめ (果実)	2	20%マイクロカプセル剤	1000倍散布 150 L/10 a	2	14, 21, 28	圃場A: 0.53/*0.03 (*2回, 3日)	
	2		1000倍散布 150 L/10 a			圃場B: 0.79/0.02	
	2		1000倍散布 150, 153~196 L/10 a			圃場C: 1.14/*0.03 (*2回, 3日)	
れんこん (根茎)	2	1.5%粒剤	4 kg/10 a散布	3	14, 21, 28	圃場A: 0.860/0.12	
	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布			圃場B: 0.218/0.01	
	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布			圃場A: 1.08/0.04	
れんこん (根茎)	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布	3	14, 21, 28	圃場B: 1.02/0.03	
	2					1000倍散布 150 L/10 a	圃場A: 0.720/- (2回, 21日)
	2					1000倍散布 150, 153~196 L/10 a	圃場B: 1.150/-
れんこん (根茎)	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布	3	14, 21, 28	圃場A: 0.67/0.02	
	2					1000倍散布 150 L/10 a	圃場B: 1.09/0.12
	2					1000倍散布 150, 153~196 L/10 a	圃場A: <0.01/<0.01 (#)
れんこん (根茎)	2	0.5%粉剤	4 kg/10 a散布	3	14, 21, 28	圃場B: 0.010/<0.01 (#)	
	2					1000倍散布 150 L/10 a	圃場A: <0.01/<0.01
	2					1000倍散布 150, 153~196 L/10 a	圃場B: <0.01/<0.01

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
エンサイ (茎葉)	2	10%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	2	7, 14, 21	圃場A:0.32/-
	2		1000倍散布 260 L/10 a			圃場B:0.64/-
やまのいも (むかご)	2	20%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	3	14, 21, 30	圃場A:2.40/-
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場B:1.58/-
未成熟ささげ (さや)	2	20%乳剤	1000倍散布 250 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:0.99/<0.01
	2		1000倍散布 200, 178 L/10 a			圃場B:1.56/<0.01
モロヘイヤ (茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 220, 204 L/10 a	1	3, 7, 14	圃場A:2.8/-
	2		1000倍散布 190, 180 L/10 a			圃場B:1.9/-
さといも葉柄 (葉柄)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.65/-
	2		1000倍散布 300, 200 L/10 a			圃場B:0.16/-
うど (軟化茎葉)	2	20%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	2	195, 202	圃場A:0.02/<0.01
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場B:<0.02/<0.01
	2		1000倍散布 200 L/10 a			圃場A:<0.01/-
	2	10%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a			圃場B:<0.01/-
ほうきぎ (果実全体)	2	20%乳剤	1000倍散布 300 L/10 a	2	14, 28, 35	圃場A:<0.01/-
	2		1000倍散布 200, 250, 160-200 L/10 a			圃場B:<0.01/-
温州みかん (果肉)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 800 L/10 a	3	14, 20, 28	圃場A:5.44/(2回, 28日)
	2		1000倍散布 500, 800 L/10 a			圃場B:4.39/(2回, 28日)
温州みかん (果皮)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 800 L/10 a	3	14, 20, 28	圃場A:*1.76/*0.10(*2回, 28日)
	2		1000倍散布 500, 800 L/10 a			圃場B:*0.84/*0.05(*2回, 27日)
なつみかん (果実全体)	2	20%乳剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.03/<0.01
	2		1000倍散布 600, 500 L/10 a			圃場B:*0.02/<0.01(*3回, 21日) (#)
すだち (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:6.90/0.52
	1		1000倍散布 615 L/10 a			圃場B:11.4/0.69 (#)
かぼす (果実)	1	20%乳剤	1000倍散布 640 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:*1.06/*0.29(*3回, 28日)
	1		1000倍散布 615 L/10 a			圃場B:*1.01/0.29(*3回, 21日)
りんご (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 600, 500 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:2.70/-
	2		1000倍散布 600, 500 L/10 a			圃場A:*1.90/*0.02(*3回, 15日)
なし (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 400, 500 L/10 a	3	14, 21, 27, 41	圃場A:0.98/-
	2		1000倍散布 400, 500 L/10 a			圃場A:*2.89/0.04(*3回, 21日)
もも (果肉)	2	20%水和剤	1000倍散布 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.39/0.25
	2		1000倍散布 400 L/10 a			圃場B:0.80/*0.22(*3回, 21日)
もも (果皮)	2	20%水和剤	1000倍散布 400 L/10 a	3	14, 21, 28	圃場A:0.72/0.20
	2		1000倍散布 400 L/10 a			圃場B:0.62/0.14
かき (果実)	2	20%水和剤	1000倍散布 500 L/10 a	3	21, 28, 42	圃場A:0.02/*0.02(*3回, 21日)
	2		1000倍散布 500 L/10 a			圃場B:*0.02/0.01(*3回, 21日)
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 400, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:*7.22/1.17(*3回, 21日)
	2		1000倍散布 360, 500 L/10 a			圃場B:7.44/0.75
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 400, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:*0.72/*0.10(*3回, 28日)
	2		1000倍散布 360, 500 L/10 a			圃場B:*0.85/*0.12(*3回, 27日)
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 400, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:2.00/-
	2		1000倍散布 360, 500 L/10 a			圃場B:1.51/-
マンゴー (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 400, 300 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:0.65/<0.01
	2		1000倍散布 360, 500 L/10 a			圃場B:2.24/0.08

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1) 【エトフェンプロックス/代謝物IV】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
くり (果実)	2	20%乳剤	1000倍散布 500, 400 L/10 a	4	8, 14, 20	圃場A:*<0.01/*<0.01(*4回, 8日) (#)
					8, 14, 22	圃場B:*<0.01/*<0.01(*4回, 8日) (#)
茶 (覆下) (荒茶)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	21	圃場A:1.62/0.12 (#)
						圃場B:3.98/0.16 (#)
茶 (覆下) (浸出液)	2	20%乳剤	1000倍散布 200 L/10 a	2	21	圃場A:<0.02/- (#)
						圃場B:0.02/- (#)
畑わさび (花及び花茎)	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.2/-
	2					圃場B:<0.1/-
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.15/0.04
	2					圃場B:0.09/0.04
畑わさび (葉(葉柄含))	2	1.5%粒剤	植付時植溝土壌混和 3 kg/10 a + 散布3 kg/10 a	1+1	7, 14, 21	圃場A:0.2/-
	2					圃場B:0.2/-
						圃場A:0.18/0.07
						圃場B:0.34/0.10

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

エトフェンプロックス 作物残留試験一覧表 (韓国)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
とうがらし (施設) (実)	1	10%水和剤	<i>1000倍</i> 散布 200 L/10a	<u>3</u>	1, 3, <u>5</u> , 7	圃場A:0.79 (#) 注2)
	1	8%水和剤	1000倍散布 250 L/10a	<u>2</u>	1, 3, 5, <u>7</u>	圃場A:1.04
	1	8%水和剤	1000倍散布 250 L/10a	<i>3</i>	1, 3, 5, <u>7</u>	圃場A:1.33 (#)

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.5	0.5	○			0.06, 0.14(\$), 0.10(#), 0.06(#)
小麦	0.5	0.5	○			0.04, 0.14(\$)
大麦	0.5	0.5				
ライ麦	0.5	0.5				
とうもろこし	0.3	0.5	○	0.05		<0.01, 0.06(\$)
その他の穀類	3		申			1.38(\$), 0.47, 0.13, 0.23(きび)
大豆	0.2	0.2	○	0.05		<0.01-0.060(\$)(n=7)(大豆)
小豆類	0.2	0.2	○	0.05		(らっかせい参照)
えんどう	0.05	0.05	○			(らっかせい参照)
そら豆	0.05	0.05	○	0.05		<0.01, <0.01
らっかせい	0.05	0.05	○			(らっかせい参照)
その他の豆類	0.05	0.05	○	0.05		(らっかせい参照)
ばれいしょ	0.05	0.1	○			<0.01, <0.01
さといも類(やつがしらを含む。)	0.1	0.1	○			
かんしょ	0.03	0.1	○			<0.01(n=4)
やまいも(長いもをいう。)	0.1	0.1	○			<0.005(#), <0.005(#)(やまのいも)
てんさい	0.3	0.5	○			0.08(\$), 0.06, 0.04, 0.08
さとうきび	0.03	0.1	○			0.005, 0.007
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	2	2	○			
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	10	10	○			
かぶ類の根	2	2				
かぶ類の葉	10	10				
はくさい	5	5	○			2.32, 2.02, 1.79, 2.88
キャベツ	2	2	○			
芽キャベツ	2	2				
ブロッコリー	10		申			1.16, 3.44(\$)
その他のあぶらな科野菜	1	1	○			<0.2, 0.5(\$), 0.08, 0.34 (畑わさび(根及び根茎))
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	2	2	○			0.05-1.20(\$)(n=6)
その他のきく科野菜	2	2	○			0.56, 0.51(ふき)
ねぎ(リーキを含む。)	2	2	○			0.30, 1.00(\$), 0.062, 0.028 (葉ねぎ)
わけぎ	2	2				
みつば	5	5	○			2.4, 1.6, 1.27, 2.54
その他のせり科野菜	2	2	○			0.3, 0.7(\$), 0.02, 0.21(せり)
トマト	2	2	○			0.609(\$), 0.264
ピーマン	5	5	○			1.71, 2.66, 1.40, 2.77
なす	2	2	○			0.64(\$), 0.16
その他のなす科野菜	2	2				【0.79-1.33(#)(n=3)(とうがらし) (韓国)】
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	2	○			0.162, 0.54(\$), 0.24, 0.18
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1	1	○			0.49, 0.126
すいか	2	2	○			
メロン類果実	2	2	○			
まくわうり	2	2				
その他のうり科野菜	1	1	○			0.56(\$), 0.20, 0.23, 0.14 (にがうり)
オクラ	3	3	○			1.10(\$), 0.16
しょうが	2	2	○			0.12, 0.13, 0.74(\$), 0.14 (葉しょうが)
未成熟えんどう	2	2	○			0.40-1.14(n=5)
未成熟いんげん	2	2	○			0.860, 0.218

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
えだまめ	3	5	○			1.08, 1.02
その他の野菜	10	5	申・○			5.44(\$), 4.39, 1.76, 0.84 (ほうきぎ)
みかん	2	2	○			1.06, 1.01
なつみかんの果実全体	3	3	○			(すだち参照)
レモン	5	5	○			(すだち参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	5	5	○			(すだち参照)
グレープフルーツ	5	5	○			(すだち参照)
ライム	5	5	○			(すだち参照)
その他のかんきつ類果実	5	5	○			2.7, 1.90(すだち)
りんご	2	2	○	0.6		0.39, 0.80
日本なし	2	2	○	0.6		0.72, 0.62
西洋なし	2	2	○	0.6		(日本なし参照)
もも	2	2	○			
ネクタリン	0.6	0.6		0.6		
ぶどう	4	4		4		
かき	2	2	○			0.72, 0.85
マンゴー	5	5	○			2.00, 1.51, 0.65, 2.24(\$)
なたね	0.01	0.01		0.01		
くり	2	2	○			
茶	10	10	○			1.62, 3.98(\$)(荒茶)
その他のスパイス	20	20	○			6.90, 11.40(\$) (みかんの果皮)
その他のハーブ	0.7	0.7	○			0.2, 0.2, 0.18, 0.34(\$) (畑わさび(葉))
牛の筋肉	0.5	0.5				推:0.13
豚の筋肉	0.5	0.5				(牛の筋肉参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.5	0.5				(牛の筋肉参照)
牛の脂肪	7	7		0.5		推:5.1
豚の脂肪	7	7		0.5		(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	7	7		0.5		(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.5	0.5		0.05		推:0.20
豚の肝臓	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓参照)
牛の腎臓	0.5	0.5		0.05		推:0.34
豚の腎臓	0.5	0.5		0.05		(牛の腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.5	0.5		0.05		(牛の腎臓参照)
牛の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
豚の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.5	0.5		0.05		(牛の肝臓、腎臓参照)
乳	0.5	0.5		0.02		推:0.35
鶏の筋肉	0.01	0.01		0.01		推:0.001
その他の家きんの筋肉	0.01	0.01		0.01		(鶏の筋肉参照)
鶏の脂肪	0.2	0.5				推:0.048
その他の家きんの脂肪	0.2	0.5				(鶏の脂肪参照)
鶏の肝臓	0.02	0.02		0.01		推:0.005
その他の家きんの肝臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
鶏の腎臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの腎臓	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
鶏の食用部分	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
その他の家きんの食用部分	0.02	0.02		0.01		(鶏の肝臓参照)
鶏の卵	0.01	0.1		0.01		推:0.004
その他の家きんの卵	0.01	0.1		0.01		(鶏の卵参照)
魚介類	0.8	0.8				推:0.77
干しぶどう	8	8		8		

申請(国内における登録、承認等の申請、インポートライセンス申請)以外の理由により本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、国内において農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

エトフェンプロックス推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品名	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	一般 (1歳以上) TMDI	一般 (1歳以上) EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) EDI	妊婦 TMDI	妊婦 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) EDI
計			1731.5	569.2	1139.3	352.1	1718.0	526.8	1828.1	677.8
ADI比 (%)			101.4	33.3	222.7	68.8	94.7	29.0	105.1	39.0

TMDI: 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

EDI: 推定1日摂取量 (Estimated Daily Intake)

●: 個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値(案)の数値を用いた。

ネクタリン、ぶどう、なたね、陸棲哺乳類の肉類、陸棲哺乳類の食用部分及び陸棲哺乳類の乳類については、JMPRの評価に用いられた残留試験データを用いてEDI試算をした。

「魚介類」については、摂取する魚介類を内水面(湖や河川)魚介類、海産魚介類及び遠洋魚介類に分け、それぞれ海産魚介類での推定残留量を内水面魚介類の1/5、遠洋魚介類での推定残留量を0として算出した係数(0.31)を推定残留量に乗じた値を用いてEDI試算した。

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI計算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値に乗じた。また、EDI計算では、畜産物中の平均的な残留農薬濃度を用い、摂取量の筋肉及び脂肪の比率をそれぞれ80%、20%として試算した。

エトフェンプロックス推定摂取量（短期）：一般(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用 いた数值 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重 /day)	ESTI/ARfD (%)
米 (玄米)	米	0.5	0.5	3.2	0
小麦	小麦	0.5	0.5	0.7	0
大麦	大麦	0.5	0.5	0.4	0
	麦茶	0.5	0.5	0.4	0
とうもろこし	スイートコーン	0.3	0.3	3.4	0
大豆	大豆	0.2	0.2	0.2	0
小豆類	いんげん	0.2	0.2	0.3	0
らっかせい	らっかせい	0.05	0.05	0.1	0
ぼれいしょ	ぼれいしょ	0.05	0.05	0.5	0
さといも類 (やつがしらを含む。)	さといも	0.1	0.1	0.5	0
かんしょ	かんしょ	0.03	0.03	0.4	0
やまいも (長いもをいう。)	やまいも	0.1	0.1	0.8	0
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	だいこんの根	2	2	23.1	2
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	だいこんの葉	10	10	82.6	8
かぶ類の根	かぶの根	2	2	14.7	1
かぶ類の葉	かぶの葉	10	10	26.6	3
はくさい	はくさい	5	5	64.8	6
キャベツ	キャベツ	2	2	19.1	2
ブロッコリー	ブロッコリー	10	10	60.1	6
その他のあぶらな科野菜	たかな	1	1	7.8	1
	菜花	1	1	2.8	0
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	レタス類	2	2	11.3	1
	非結球レタス類	2	2	8.1	1
	レタス	2	2	11.5	1
ねぎ (リーキを含む。)	ねぎ	2	2	7.6	1
わけぎ	わけぎ	2	2	4.0	0
みつば	みつば	5	5	4.0	0
その他のせり科野菜	せり	2	2	3.3	0
トマト	トマト	2	2	21.9	2
ピーマン	ピーマン	5	5	12.8	1
なす	なす	2	2	12.9	1
その他のなす科野菜	とうがらし (生)	2	2	3.2	0
	ししとう	2	2	2.0	0
きゅうり (ガーキンを含む。)	きゅうり	1	1	6.3	1
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	かぼちゃ	1	1	9.8	1
	ズッキーニ	1	1	7.2	1
すいか	すいか	2	2	65.9	7
メロン類果実	メロン	2	2	34.0	3
その他のうり科野菜	とうがん	1	1	17.0	2
	にがうり	1	1	8.1	1
オクラ	オクラ	3	3	4.4	0
しょうが	しょうが	2	2	1.8	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう (さや)	2	2	3.3	0
	未成熟えんどう (豆)	2	2	3.4	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	2	2	3.9	0
えだまめ	えだまめ	3	3	7.6	1
その他の野菜	ずいき	10	10	101.2	10
	もやし	10	10	22.9	2
	れんこん	10	10	62.2	6
	そら豆 (生)	10	10	29.4	3
みかん	みかん	2	2	18.7	2
なつみかんの果実全体	なつみかん	3	3	37.3	4
レモン	レモン	5	5	10.5	1
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	オレンジ	5	5	47.0	5
	オレンジ果汁	5	5	49.7	5
グレープフルーツ	グレープフルーツ	5	5	86.1	9
その他のかんきつ類果実	きんかん	5	5	12.0	1
	ぼんかん	5	5	52.6	5
	ゆず	5	5	7.9	1
	すだち	5	5	7.9	1
りんご	りんご	2	2	28.6	3
	りんご果汁	2	2	21.2	2
日本なし	日本なし	2	2	30.3	3
西洋なし	西洋なし	2	2	28.1	3
もも	もも	2	2	27.1	3
ぶどう	ぶどう	4	4	53.9	5
かき	かき	2	2	28.6	3
マンゴー	マンゴー	5	5	67.4	7

エトフェンプロックス推定摂取量（短期）：一般(1歳以上)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用 いた数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重 /day)	ESTI/ARfD (%)
くり	くり	2	2	4.3	0
茶	緑茶類	10	10	6.1	1

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARfD(%)の値は、有効数字1桁（値が100を超える場合は有効数字2桁）とし四捨五入して算出した。

エトフェンプロックス推定摂取量（短期）：幼小児(1～6歳)

食品名 (基準値設定対象)	食品名 (ESTI推定対象)	基準値案 (ppm)	評価に用 いた数値 (ppm)	ESTI ($\mu\text{g}/\text{kg}$ 体重 /day)	ESTI/ARfD (%)
米 (玄米)	米	0.5	0.5	5.4	1
小麦	小麦	0.5	0.5	1.5	0
大麦	大麦	0.5	0.5	0.3	0
	麦茶	0.5	0.5	0.9	0
とうもろこし	スイートコーン	0.3	0.3	7.2	1
大豆	大豆	0.2	0.2	0.2	0
らっかせい	らっかせい	0.05	0.05	0.1	0
ばれいしょ	ばれいしょ	0.05	0.05	1.1	0
さといも類 (やつがしらを含む。)	さといも	0.1	0.1	1.3	0
かんしょ	かんしょ	0.03	0.03	0.8	0
やまいも (長いもをいう。)	やまいも	0.1	0.1	1.4	0
だいこん類 (ラディッシュを含む。)	だいこんの根	2	2	43.7	4
はくさい	はくさい	5	5	78.4	8
キャベツ	キャベツ	2	2	31.3	3
ブロッコリー	ブロッコリー	10	10	144.1	10
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	レタス類	2	2	19.6	2
	非結球レタス類	2	2	27.8	3
	レタス	2	2	17.7	2
ねぎ (リーキを含む。)	ねぎ	2	2	13.0	1
トマト	トマト	2	2	54.3	5
ピーマン	ピーマン	5	5	32.7	3
なす	なす	2	2	31.3	3
きゅうり (ガーキンを含む。)	きゅうり	1	1	14.6	1
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	かぼちゃ	1	1	16.0	2
すいか	すいか	2	2	173.1	20
メロン類果実	メロン	2	2	58.6	6
オクラ	オクラ	3	3	13.0	1
しょうが	しょうが	2	2	3.0	0
未成熟えんどう	未成熟えんどう (さや)	2	2	2.5	0
	未成熟えんどう (豆)	2	2	3.6	0
未成熟いんげん	未成熟いんげん	2	2	8.1	1
えだまめ	えだまめ	3	3	8.4	1
その他の野菜	もやし	10	10	41.9	4
	れんこん	10	10	102.8	10
みかん	みかん	2	2	54.8	5
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	オレンジ	5	5	134.7	10
	オレンジ果汁	5	5	89.2	9
りんご	りんご	2	2	64.2	6
	りんご果汁	2	2	67.5	7
日本なし	日本なし	2	2	57.5	6
もも	もも	2	2	84.8	8
ぶどう	ぶどう	4	4	122.5	10
かき	かき	2	2	41.8	4
茶	緑茶類	10	10	9.6	1

ESTI：短期推定摂取量 (Estimated Short-Term Intake)

ESTI/ARfD(%)の値は、有効数字1桁 (値が100を超える場合は有効数字2桁) とし四捨五入して算出した。

(参考)

これまでの経緯

昭和62年	4月13日	初回農薬登録
平成17年	11月29日	残留農薬基準告示
平成21年	2月4日	農林水産省から厚生労働省へ基準値設定依頼（魚介類及び畜産物）
平成21年	2月17日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	11月19日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成23年	3月15日	残留農薬基準告示
平成25年	3月29日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：みつば及びマンゴー）
平成25年	6月11日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成25年	8月5日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成27年	3月26日	残留農薬基準告示
平成26年	11月21日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：きび、ブロッコリー及びほうきぎ）
平成27年	1月8日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成27年	6月9日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成27年	11月2日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成27年	11月4日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 石井 里枝 | 埼玉県衛生研究所水・食品担当部長 |
| ○大野 泰雄 | 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団理事長 |
| 尾崎 博 | 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授 |
| 斉藤 貢一 | 星薬科大学薬品分析化学教室教授 |
| 佐々木 一昭 | 東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授 |
| 佐藤 清 | 一般財団法人残留農薬研究所技術顧問 |
| 佐野 元彦 | 東京海洋大学海洋生物資源学部門教授 |
| 永山 敏廣 | 明治薬科大学薬学部薬学教育研究センター基礎薬学部門教授 |
| 根本 了 | 国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長 |
| 二村 睦子 | 日本生活協同組合連合会組織推進本部組合員活動部部長 |
| 宮井 俊一 | 一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問 |
| 由田 克士 | 大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授 |
| 吉成 浩一 | 静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野教授 |
| 鱒淵 英機 | 大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学教授 |
- (○：部会長)

答申

エトフェンプロックス

食品名	残留基準値
	ppm
米(玄米をいう。)	0.5
小麦	0.5
大麦	0.5
ライ麦	0.5
とうもろこし	0.3
その他の穀類 ^{注1)}	3
大豆	0.2
小豆類 ^{注2)}	0.2
えんどう	0.05
そら豆	0.05
らっかせい	0.05
その他の豆類 ^{注3)}	0.05
ばれいしょ	0.05
さといも類(やつがしらを含む。)	0.1
かんしょ	0.03
やまいも(長いもをいう。)	0.1
てんさい	0.3
さとうきび	0.03
だいこん類(ラディッシュを含む。)	2
だいこん類(ラディッシュを含む。)	10
かぶ類の根	2
かぶ類の葉	10
はくさい	5
キャベツ	2
芽キャベツ	2
ブロッコリー	10
その他のあぶらな科野菜 ^{注4)}	1
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	2
その他のきく科野菜 ^{注5)}	2
ねぎ(リーキを含む。)	2
わけぎ	2
みつば	5
その他のせり科野菜 ^{注6)}	2
トマト	2
ピーマン	5
なす	2
その他のなす科野菜 ^{注7)}	2
きゅうり(ガーキンを含む。)	1
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1
すいか	2
メロン類果実	2
まくわうり	2
その他のうり科野菜 ^{注8)}	1
オクラ	3
しょうが	2
未成熟えんどう	2

注1)「その他の穀類」とは、穀類のうち、米、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。

注2)いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズを含む。

注3)「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。

注4)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。

注5)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。

注6)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

注7)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。

注8)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちゃ、しろり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。

食品名	残留基準値		
	ppm		
未成熟いんげん		2	
えだまめ		3	
その他の野菜 ^{注9)}		10	注9)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。
みかん		2	
なつみかんの果実全体		3	
レモン		5	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)		5	
グレープフルーツ		5	
ライム		5	
その他のかんきつ類果実 ^{注10)}		5	注10)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
りんご		2	
日本なし		2	
西洋なし		2	
もも		2	
ネクタリン		0.6	
ぶどう		4	
かき		2	
マンゴー		5	
なたね		0.01	
くり		2	注11)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。
茶		10	
その他のスパイス ^{注11)}		20	
その他のハーブ ^{注12)}		0.7	
牛の筋肉		0.5	注12)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。
豚の筋肉		0.5	
その他の陸棲哺乳類に属する動物 ^{注13)} の筋肉		0.5	
牛の脂肪		7	
豚の脂肪		7	注13)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪		7	
牛の肝臓		0.5	
豚の肝臓		0.5	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓		0.5	
牛の腎臓		0.5	
豚の腎臓		0.5	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓		0.5	
牛の食用部分 ^{注14)}		0.5	注14)「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。
豚の食用部分		0.5	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分		0.5	
乳		0.5	
鶏の筋肉		0.01	
その他の家きん ^{注15)} の筋肉		0.01	注15)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。
鶏の脂肪		0.2	
その他の家きんの脂肪		0.2	
鶏の肝臓		0.02	
その他の家きんの肝臓		0.02	

食品名	残留基準値 ppm
鶏の腎臓 その他の家さんの腎臓	0.02 0.02
鶏の食用部分 その他の家さんの食用部分	0.02 0.02
鶏の卵 その他の家さんの卵	0.01 0.01
魚介類	0.8
干しぶどう	8